



地球温暖化防止



- 地域別CO₂排出量の推移
- オフィスにおけるCO₂排出量の推移

温室効果ガスの排出削減が、ますます求められています。ムラタでは温室効果ガス排出の総量、そして実質生産高原単位の削減を重要テーマとして、ムラタグループ全体で温暖化防止に取り組んでいます。



CO₂排出量の削減

実質生産高原単位^①で大幅な削減を達成

ムラタは2007年度、国内グループにおける温室効果ガス排出量の実質生産高原単位を1990年度比23.5%以上削減することを目標に、省エネルギーの施策を進めました。その結果、原単位で49%と大幅な削減を達成しました。高効率機器の導入などを積極的に進め、年間2万トン以上削減したことが大きく寄与しています。

しかし、排出絶対量は、前年度比15%と大きく増加し、約55万トンの排出となりました。これは生産規模が拡大したこと、電力会社の排出係数が4.8%程度増加したためです。

① 実質生産高原単位とは？
生産高(金額)を、日銀が公表している国内企業物価指数(電子部品・デバイス)でデフレ補正した実質生産高あたりのCO₂排出量を表す値です。一定量(金額)の製品を生産する過程で、どれだけ温室効果ガスを排出したかを示すものです。

② 電力会社の排出係数とは？
各電力会社の2006年度から2007年度の排出係数の伸びを、それぞれの電力会社別使用量で加重平均した値のことです。

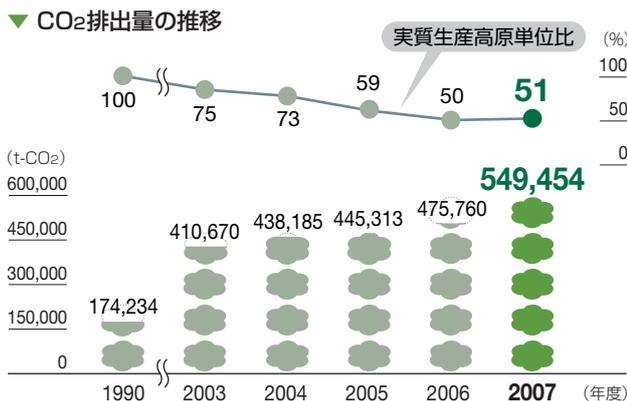
中国とシンガポールの各工場で省エネを指導

ムラタは、海外生産拠点での温室効果ガス削減にも積極的に取り組んでいます。2007年度は中国とシンガポールの各拠点へ本社の担当者が赴いて、省エネ機器の導入や運用管理について指導しました。運用管理の改善によって、事業所で消費する圧縮空気が5%程度削減できました。

原単位削減目標を引き上げ、総排出量削減も計画

2007年度実績を受け、2008年度から2010年度の実質生産高原単位削減目標を35%に引き上げます。また、今後は総排出量の削減に向けた取り組みを実践します。[※]

[※] 2006年度の地球温暖化対策の推進に関する法律の改正にともない、ガス会社の排出係数を過去に遡って修正しました。



省エネ診断



野洲事業所の
コージェネレーションシステム

従業員から

持続可能なエネルギー消費量の削減を目指して



株式会社
出雲村田製作所
管理部環境管理課

勝部 透

出雲村田製作所は、設備効率・面積生産性の向上と高効率の空調用熱源機導入によって、平成15年～18年にエネルギー消費量が生産数原単位で28%削減できたことが評価され、経済産業省が主催する平成19年度「エネルギー管理優良工場等表彰」において「資源エネルギー庁長官表彰」を受賞しました。

この評価を励みに、今後も地球温暖化防止に寄与する省エネ活動を継続します。

[※] 2007年度は、この他に小松村田製作所、登米村田製作所が「地方経済産業局長表彰」を受賞しました。

省エネルギーを実現する生産設備を開発

ムラタでは「できるだけ少ないエネルギー、小さい面積で生産できる」設備を開発しています。従来設備をベンチマークとして単位製造製品数あたりの消費エネルギーを比較すると、2004年度以降導入の設備はすべて省エネルギー・省スペースを実現しています。

2007年度は、10機種の設備を新規開発し、計375台を工場に導入しました。これによって約9,900トン(2007年度国内事業所CO₂総排出量の約1.9%相当)のCO₂排出量を削減しました。

2008年度以降は①焼成炉の効率アップ、②ムラタの主力製品生産設備(積層機)の超合理化(従来機の75%省エネ)、③乾燥設備の廃熱利用(従来機の50%省エネ)、④設備設計審査時の省エネチェック体制強化、⑤国内事業所での省エネ設計教育、の5つの目標を掲げ、省エネルギー設備の開発を進めていきます。

▼ 開発設備の省エネルギー性

